

令和6年度第3回東大和市子ども・子育て支援会議 要録

〔日 時〕 令和6年8月9日（金）午後2時～4時
〔会 場〕 会議棟 第6・7会議室
〔出席人数〕 委員7人（4人欠席）
〔傍 聴 人〕 1人
〔内 容〕

1 議題

○審議事項(1)「東大和市子ども・子育て未来プラン令和5年度実施状況報告書(案)について」

【事務局】子ども・子育て未来プランの進行管理として、対象事業の実施状況を確認し、関係各課で点検評価を行った。

【委員】ショートステイ事業は、施設と協力家庭の2つで行っているが、その割合を知りたい。

【事務局】実態としては、相談はあるものの協力家庭の利用は0件で、全て施設で実施している。

【委員】学校が学級閉鎖になり、仕事が休めないときに、預かってもらえるところはあるか？

【事務局】ランドセル来館や児童館の一般来館も朝から行っているのでもちらを利用してもらう形になる。しかしどちらも給食などはないため、持ってきてもらうことになる。

【委員】それは何か周知しているのか、保護者の方に聞いても知らない。

【事務局】問合せがあれば回答している。

【事務局】社会福祉協議会のファミリー・サポート・センターがある。有料になるが、子どもの預かりや保育園や幼稚園への送迎ができる。必ず希望通りに利用できるとは限らないが、利用には事前登録が必要のため、あらかじめ登録を済ませておくと思う。

【委員】各学校では児童生徒1人1台パソコンがあり、学級閉鎖のときにはオンライン授業をしている。学校側では学びを止めないように心掛けている。その際に学童やランドセル来館に行っている子どもは、ネットにつなげる手段がないため、学びを受けられない。今後は色々な設備を整える中でもWi-Fiを設置するなどの環境の整備は必要であると思う。

【委員】青少年課が教育委員会で直接担うことになった件についてのメリットを知りたい。また、特別な配慮を必要とする児童への対応に関する研修で、参加者9人とあったが9人という参加者の少なさで評価が2なのか。

【事務局】青少年課が教育委員会に移ったメリットは、学校の方に直接出向いて教室を借りる等の調整の際に、非常に小回りが利き、スムーズに進めることができる。研修についてはこれまでの職場ですでに同様の研修を受けている職員もいる中で、毎年新しい方を中心に参加を促し、9人参加ということで、一定の評価ができると考え2の評価をしている。

【委員】小・中学生を診察する中で、なかなか体調がよくなりえない子の話を聞くと、学校に行けていないなど、生活がすごく乱れている子が多い。少しずつ回復してきて、サポートルーム

を勧めてもつながることも少ない。サポートルームに行った子どもの中には給食も出て、生活も整ってきてよかったなという子どももいる。令和5年度の実績は31人だが、市としてどのように周知しているのか。スクールカウンセラーも伝えていると思うが、何か我々ができるところがあるか伺いたい。

【委員】今、心の面や色々な諸事情で、登校ができない子が本当に増えている。特に低学年、入学してすぐの子どもが教室に入れず保健室に行ったりすることもある。今年度から従来のサポートルームに加えて校内サポートルームが開設された。従来のサポートルームは中学生の利用が少しある程度で小学生は少なかった。第二・五・八小学校が校内サポートルームを実施することになり、第八小学校は週4日その先生が来ることになっているが、学校によっては週1日だけ先生が来る学校もある。もう少し充実していくことが大切である。それが充実すると居場所が増えると思う。

【委員】東京都では、今年度からチャレンジクラス（東京型不登校特例校）を設置している。不登校の子は家族の課題が大きく、親の意識が大きく関わっている。チャレンジクラスは学校であり、学力の定着が目的なので、家族のことも話せる環境があればよいと思う。

【事務局】さわやか教育相談室では、生活相談記録、適応指導教室のように何でも相談できる、学校に相談しにくいことをここで相談してもらい、そこで連携が図ることができる。

【会長】様々な意見が出たが、それを利用する側の子どもの親たちはどこまで知っているのか、どのような形で市民に周知していくか、それが我々の役割だと思う。

○審議事項(2)「東大和市子ども・子育て未来プランの骨子（案）について」

【事務局】現行の「東大和市子ども・子育て未来プラン」の「基本目標」ごとに「国の方針」「現行計画の方向性」「現在の取組」「ニーズ調査結果」に加え、「次期計画に向けた課題」をまとめたものを記載している。

【会長】ヤングケアラー、市内の中学生が5%で高校生2%という数字は日本の社会を見て高いのか。

【委託事業者】調査内容によっても少し変わるが、ある調査では、中学2年生が6%、高校生が4%という結果がある。

【委員】ヤングケアラーについて、中学生5%、高校生2%もいて、意外だった。これははじめと同じで数字があってはならないことだと思う。ヤングケアラーに関連する事業はあるのか。

【事務局】今回の調査で市の実態が明らかになったので、何が必要かを見極めて対応したい。

【委員】他の多くの地域に小学生、中学生用の情緒障害者施設があるが東大和市にはない。色々な要素が集まっており、支援が必要な家庭を見つけてつながることができる。情緒障害の教室を東大和市にも作るべきだし、それに類似の取組を行ってほしい。

審議事項(3)「東大和市若者インタビューについて」

【事務局】今年度の成人式実行委員会の委員の、市内5つの中学校の卒業生、男女各1人ずつ計10人を対象に、9月下旬にインタビューを実施予定。

【委員】成人式の実行委員は、成人式自体に来ない人もたくさんいる中で、実行委員をやろうと思う子たちなので、かなり意識が高い。そういう人たちの意見を聞くことは当然、色々な意味を持っていると思うが、やはり今後子ども・子育ての参考資料にしたいということであれば、この10人だけでなく他にも多くの人にインタビューをすべきであると思う。